

緑 ネット通信

No.72

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000 円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090- 2935- 9444

都市の緑を残すには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は「みどり」、特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携し、その輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

こんな森がいいな

17期「いいなの会」いよいよ 活動開始!

藤田 隆

「オープンフォレスト in 松戸」が今年も中止になってしまい、とても残念ですが、松戸の里山活動はそれぞれの会がそれぞれのペースで続いています。また、2019 年秋に実施された「里やまボランティア入門講座」の修了生がいよいよ活動を始めました。「いいなの会」が開始した「大作の森」(仮称)の活動とフォローアップ研修の様子をお届けします。



しんやまの森



芋の作の森

ここから始める森整備

「えっ！ここから始めるの！」という印象が先に立った。散歩する近隣の住民、クルマも往来が激しい住宅地のなかの樹林地。道路にはみ出しそうな草本群落だ。

「ここは白い蛾が飛んで薄気味悪い、

「両側が薄暗い森でね」と道行く人からあまり良い印象はきかれない。

里やま応援団が活動する近所の芋の作の森、しんやまの森は、以前に

比べると、ずいぶん明るくなり、季節にはたくさんの花が咲き、散歩などで通る人から声をかけられるなど、印象も違ってきたと会員から声を聞いた。

5月28日(金)10時から、「大作の森」(仮称)の道を隔てた「オリンポスの山」でフォローアップ研修「森のはなし、木のはなし」が行われた。講師は一起の会の山口熙さん。



「森林ができるまで」の項目では、裸地からコケ植物、地衣類、1年生植物、多年生植物、陽樹に陰樹、極相林への遷移について講義。

松戸市内の多くの森では「森は4階建てのマンション」構造＝高木層、亜高木層、低木層、草本層、外縁にマント群落と紹介。(マンションは地下構造が大事、菌類や微生物の土壌を入れて5層構造)

続いて常緑樹、広葉樹の主な種類、森林法、千葉県森林率、松戸市の森林率と話が進み、市内の森林率3%に一同驚きの声が上がった。

講義の後、大作の森に入った。少し進むと広がった空間があった。すでに2回ゴミ集め活動をしたという空間にオートバイのガソリンタンク、カウリング、家庭ごみの品々が集められていた。

さらに森の奥に進む。行く手を阻むのはアズマネササ、アオキ、シロダモ、ヤツデたちだ。バキバキと音を立ててかき分けていくと、もうひとつの狭い空間が広がっていた。第二広場にしようと思っ



藪漕ぎをしながら、園路の相談が始まっていた。次の活動目標が立てられたようだ。

講義を受けた後だけに常緑樹、広葉樹どちらかなど葉、樹皮を見る目が変わっているのに気がつく。「ムクノキが多いね」と声が上がる。スギも一本確認できたが針葉樹が少なく常緑広葉樹が多い印象だった。

甚左衛門の森（14期修了生の活動地）に最初に入った時は、竹林、アズマネザサ、アオキ、折損木との戦いだった。集めたごみはとんでもない量が集まった。大作の森もそんな印象を抱いた。首都圏の近郊都市にありがちな特徴だ。森を抜けると左右に住宅地が広がり、開放感がある。

松戸市の里やま活動は着実に前進してきたが、二十年近くの活動を経て、高齢化や、まとまった樹林地が残りに少なく減少していることなど、いくつかの課題を抱えている。



この森は住宅地のど真ん中、市民が通勤・通学・徒歩で行ける立地。オープンフォレストが再開した折には、思い切った新たな試みができる活動地、松戸の里やまのフラッグシップにもなれるのではないかという印象で、とても楽しみだ。

ドングリの木が危うい！

松戸でもナラ枯れ被害が大発生 官民協力して対策に全力

松戸里やま応援団 野口 功

コナラの大木を一気に枯らしてしまうナラ枯れが、松戸でも広がっています。原因は、カシノナガキクイムシ（カシナガ）が樹幹に穿入し、メスが持ち込むナラ菌がまん延して樹木の通水機能が損なわれるためです。数十つがいものカシナガに襲われると、わずか数週間で枯れてしまいます。里山の景観が台無しになるばかりでなく、いつ倒れるかわからない枯死木はたいへん危険です。

全国的には1990年頃から日本海側を中心に被害が目立つようになり、2010年頃には30都府県に広がりました。その後被害は減少傾向にあります。千葉県では2015年に鴨川市で初めて被害が発見されました。

松戸市では、昨年7月、里やま応援団七喜の会の森で初めて被害が確認されました。おそらく一昨年頃から小規模の被害が始まっていたと思われ、昨夏の緊急調査では里やまボランティアが活動する森だけで、100本を超えるカシナガ穿入木が見つかりました。穿入数は数千つがいと推定され、放置すれば今春には数十万匹のカシナガ発生が予想される重大な事態でした。

===松戸里やま応援団の緊急対応===

応援団では、七喜の会の報告を受け、ただちに前述の緊急調査を実施。結果を松戸市みどりと花の課に報告するとともに、千葉県農林総合研究センター

森林研究所の専門家を招いてナラ枯れ対策講習会を開催しました。そこで紹介された簡易トラップを作って、数日の内に約400個を林内に設置しましたが、すでにカシナガ飛来の盛期を過ぎていたので多くの成果はあがりませんでした。

===今春のカシナガ大発生に備えて===

秋以降は、カシナガが樹木内で卵を産み、幼虫が育つ時期です。この時期の対策は、被害木に薬剤を注入して幼虫の駆除やナラ菌の広がりを予防することですが、労力や経費、薬害など現実的ではありませんでした。そこで、みどりと花の課と相談し、2021年春の穿入木からのカシナガの飛散防止と新たな穿入防止の対策を進めることとしました。

松戸市は、県や周辺自治体と協議し、①既穿入木や特に守るべき未穿入木に特殊なネット（クビアカガードネット）を巻き、カシナガの飛散や新たな穿入を防止する、②穿入カシナガの駆除と倒木の危険防止のため、ナラ枯れによる枯死木は伐採・処分するという方針を決め、2021年度予算に必要経費を計上しました。通常なら、市が実施する対策は公有地に限られますが、それではナラ枯れの拡大を防げないこと、里やまボランティアが活動する森はオープンフォレストや子どもの自然体験などに活用されていること、みどりを守る市民力である里やまボラ

ンティアの活動の安全を確保する必要があることなどから、里やまボランティアが活動する森のナラ枯れ対策を支援する異例の予算措置を講じてくれました。具体的には、ネットの支給とナラ枯れ枯死木の業者への伐採・処分の委託です。

===具体的な取り組み状況===

みどりと花の課は、3月、ナラ枯れ対策の専門家を招いて、ネット巻きの講習会を開催。多くの里やまボランティアが参加し、ネット巻き方策を学びました。また里やま応援団は、千駄堀地区のしんやまの森で、ネット巻きの練習会を実施しました。ネットは市から支給されましたが、その他の関連資材はボランティア団体の負担です。また、幅190cmのネットを大木に巻き付け、カシナガが漏れないように固定する作業はなかなか大変です。6月頃からはカシナガが飛び始めるため、コロナ禍の中で、臨時の作業日を設けての作業となりました。それでも100%の対策は、資材量からも作業量からもとても不可能で、少しでも被害を減らせばと汗を流しました。飛来虫を駆除するための簡易トラップも作り、ネット巻きと併せて設置を進めています。

伐採・処分する枯死木は、応援団とみどりと花の課で何度も現地を調査し、33本を確認しました。カシナガが穿入するのはいずれも大木で、伐採、搬出は容易ではありません。それでも少しでも予算を有効に活用するため、ボランティアで対処できる木を選定し、応援団の「技術・安全部会」の力も投入して何本かの枯死木の伐採・搬出を行いました。

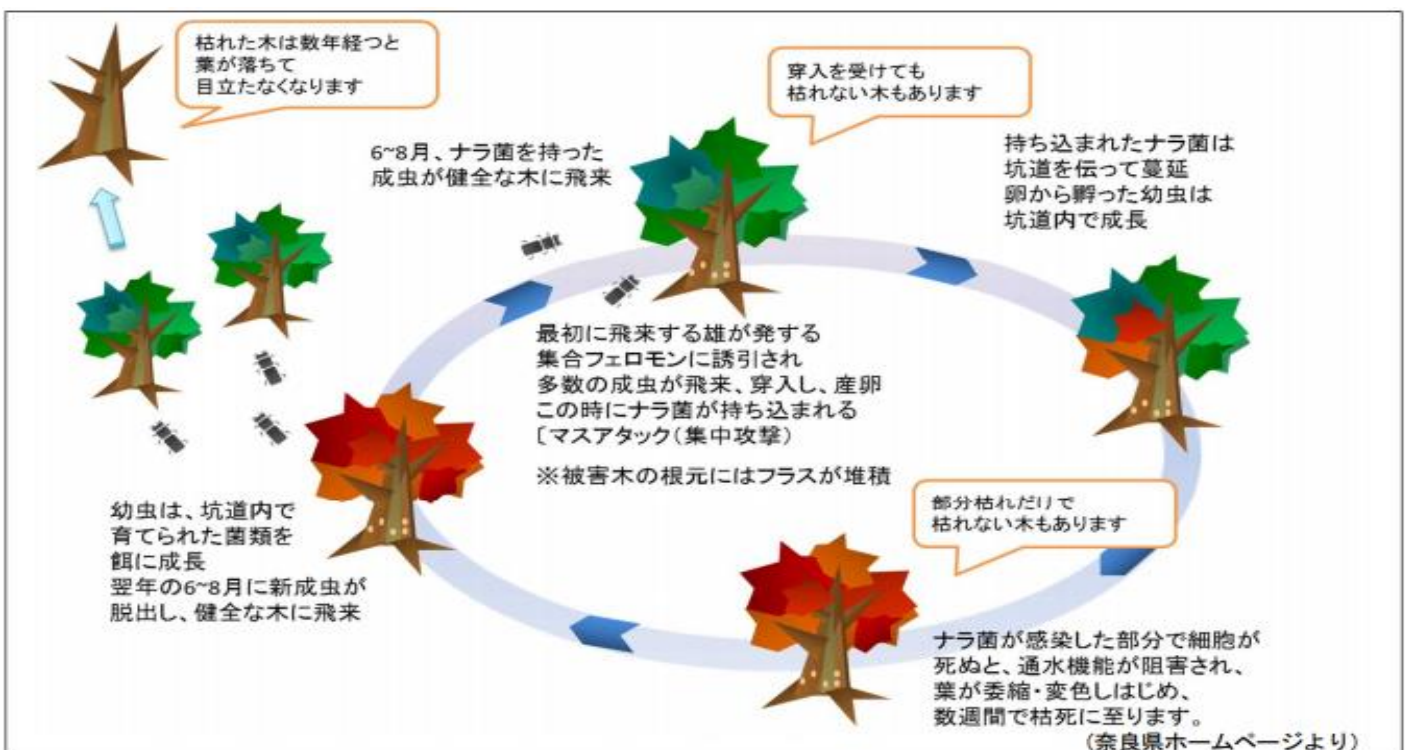


松戸市からは応援団に対して里やまボランティアが活動する森以外の民有林のナラ枯れ対策についても支援依頼があり、一定の対応をしています。

===今後の対応===

松戸市におけるナラ枯れ対策は、里やまボランティア団体の日常の緊密な連携の蓄積と、松戸市の積極的な支援のおかげで、機敏な対応を進めることができました。しかし、それで終わりではありません。ネットやトラップは設置しましたが、頻繁に見回り、補修やカシナガ駆除などが必要です。今後、新たなカシナガ穿入や枯死木の発生も予想されます。

カシナガの被害はまだ数年続きそうです。これから暑い盛夏を迎えますが、松戸のみどりを守り、危険を防止するために、安全に配慮しながら取り組みを続けていきたいと思っています。



～しぜんのコラム 48～

ビロードハマキ

関さんの森・関家の生垣は“混ぜ垣”である。本来はヒメツゲの生垣だったが、鳥や風が運んだ多様な種子が発芽・定着し、現在 20 種の本木が認められる。自然保護は生物多様性の維持が大切だが、関家の生垣は生物多様性に富んでおり、絶好の観察ポイント。チョウでは、エノキにゴマダラチョウ類、シロダモにアオスジアゲハの幼虫が見られる。植物の種類が多ければ、昆虫の種類も多くなる。

そして、この日、シロダモの葉の裏に、羽化直後の派手なガがぶら下がっていたのである。



葉を裏返しにするとガは翅をたたんだ 2021.5.30 関さんの森

やはりビロードハマキであった。通常、葉の上などで静止しているときは、前翅で後翅を完全に隠すことが多いが、今は羽化直後のせいか、完全には隠していない。また、頭部や胸部も前翅と同様の白黒まだら模様で、前翅が後翅を完全に隠すと、前翅端のオレンジ色が目立ち、どちらが頭かわからなくなる。これは、大事な頭部への攻撃リスクを下げる効果がある。

一方、前翅に比べて後翅の色やコントラストが大きく異なるのは、天敵に襲われたとき、後翅を見せてびっくりさせ、その隙に逃げるためであろう。

ところで、ビロードハマキはハマキガの仲間。幼虫はシロダモなどの葉を食べ、葉をまるめて葉巻状の巣をつくることから、ハマキガの名前がある。

ビロードハマキは近年見かけることが多くなってきているが、それは南方系のガだからである。かつては千葉県が北限とされていたが、温暖化の影響で現在は宮城県南部まで北上しているという。

(山田純稔)



シロダモの裏に下垂する派手なガ 2021.5.30 関さんの森

何だろう？ 後翅裏側が見えているが、こんな模様は見たことが無い。さらによく見ると翅の上縁は白黒のまだら模様。この模様でひらめいた!! ビロードハマキかも。さっそく葉を裏返してみると、ガは翅をたたみ、前翅表側が見えるようになった。

総会報告と新年度ご挨拶

代表: 藤田 隆

新型コロナ感染の広がり、休日には公園、緑地で過ごす人たちが増え、みどりの大切さを実感させられます。5月4日、リモートによる形で総会が開かれ、2020 年度事業報告、決算報告と 2021 年度事業計画、予算案が検討され、承認されました。今年度もみどりに触れ合う企画をしていきたいと考えています。

会費納入のお願い

会の維持には皆様からの会費が活動の資源です。会費の納入を宜しく願いいたします。

予 告

★松戸のみどり再発見ツアー-56 (観察学習会 71)

「市ざかいに残る豊かな自然を訪ねる」(先着 20 名・10 月 1 日受付開始)

松戸市との市ざかい、市川北部に残された自然、消えていく森を訪ね、みどりについて考える。森の中でじっくりと樹木・野草・森の生き物たちと向き合い、身近なみどりを楽しみましょう。

10月13日(水) 9:30~12:30 (小雨実施) 集合: 北総線大町駅

参加費 300 円 (会員は 100 円) 申し込み・問い合わせ 090-4078-3703 (藤田)

お願い: 新型コロナウイルス関連で中止になる場合がございます。事前にご確認を!